

【全体概要】

日本一のイチジク産地「あいちのいちじく」のブランド化にむけて、高品質安定生産技術の導入と新商材の開発を行う。雨よけハウス栽培の優位性(日持ち性向上と腐敗果軽減効果)を実証し、費用対効果を検証する。あわせて高品質果実を有利販売に繋げるため、消費者及び実需者のニーズを把握した上で新商材を開発する。

新品種・新技術等の概要

技術:ビニル巻き上げ式を採用した開閉式雨よけハウス栽培によるイチジクの日持ち性向上と腐敗果軽減
概要:農研機構によると、雨よけハウス栽培により収穫時の降雨による品質低下が抑えられ、糖度がやや上昇し、収穫量が増加し、商品性の高いイチジク生産が可能になる。

東京戸張(株)が開発した開閉式雨よけハウスは、天井までフィルムを巻き上げフルオープンにできるため、より高品質なイチジク栽培が期待できる。



開閉式雨よけハウス

主な取組内容

【高品質安定生産技術の実証】

○産地においてビニル巻き上げ技術を用いた開閉式雨よけハウス栽培による、高品質果実の安定生産技術を実証(H29、30 4～11月)

【ニーズの把握】

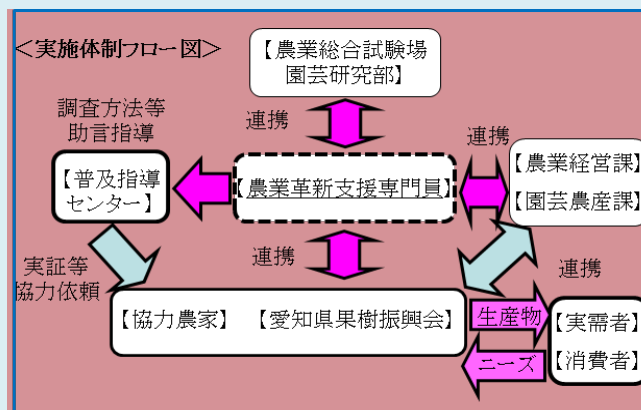
○直売(イチジク産地)において、消費者ニーズ(食味、出荷規格、販売単価)等のアンケート調査を実施(H29 9月、H30 10月)

○全国的な消費者ニーズについてインターネットによるアンケート調査を実施し、購買意欲を把握(H30 2月、H31 3月)

【新商材の開発】

○イチジク少量入りパック販売について実需者等との意見交換(H29 8月)、試作品の販売(H30 10月)

コンソーシアム候補の体制図



【農業革新支援専門員】

- ・事業実施計画の作成と運営
- ・各種検討会の開催
- ・関係機関との連携

【実需者】

- ・卸売業者(市場出荷)
- ・JA(直売所)

【普及指導センター】

- ・実証ほの設置と運営管理
- ・果実調査、アンケート調査等
- 【農業総合試験場園芸研究部】
- ・各種検討会への参画
- ・現地実証への助言

【農業経営課・園芸農産課】

- ・各種検討会への参画
- ・農業者団体活動支援

実績と今後の展開

【高品質安定生産技術の実証】

○開閉式雨よけハウス栽培による腐敗果軽減効果により、廃棄率が5%以下に抑えられた。

【ニーズの把握】

○少量パックに関するニーズを確認し、試作品を検討(右写真)。

【新商材開発】

○少量パックの試験販売を実施。今後も商品化を継続して提案。販路の確立を進める。

【今後の対応】

○日持ち性向上効果を確認し、有利販売に活かす。

○産地と実需者で情報交換会を実施し、新技術の導入、新商材の開発及び販路の開拓に向けた、コンソーシアム候補を形成する。

